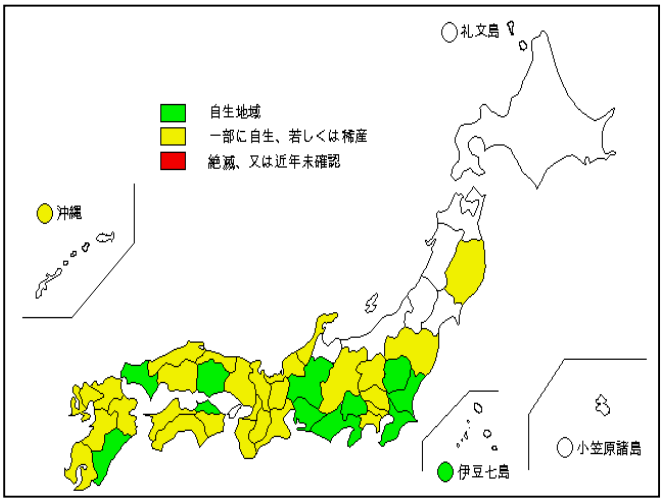
#343

ヨウラクラン

Oberonia japonica

老木に着生するヨウラクラン（愛知県奥三河　09.05/23）

宮城県以南の全国に自生する小型の着生蘭です。渓流沿いの梅や桜、杉などの樹木に下向きに着生し、大きな株を形成し4～5月頃に無数の小さな花を咲かせます。日本の蘭の中では最も小さな花ですが、塊になるため遠目でも良く目立ちます。根はラン科にしては貧弱で針金のようで、株ももろく触るとぽろぽろと取れてしまうこともあります。カヤランと同じく生きた樹木のみに着生し、枯れ木や岩上では生きられないようです。生育環境はカヤラン、クモランと同様で、梅の樹幹や杉の小枝に一緒に自生している姿をよく目にします。渓流沿いを歩いていると、落ちている杉の小枝にもパラパラとついているので、自生量は多いようです。花茎が伸び始め開花してから受粉し結実するまでの期間が非常に短く、種子は開花から一ヶ月程度で成熟し飛散します。その種子が杉の小枝やウメノキゴケの隙間などに挟まり発芽して分布を拡大していきます。芽出しはもちろん1芽ですが、年々株が倍増していき、数年で100芽ほどのこんもりとした丸い固まりになります。



寒冷地を除く全国の冷涼な山地に自生します。

梅の樹幹に着生(愛知県奥三河09.07/05)

杉に着生する場合は樹幹ではなく杉の枝、それも細い先のほうや葉に着いている事が多いです。多分種子の引っかかる確立が高いのとぶら下がる形で空気中の水分を吸収するのに適しているためだと思われます。逆に梅や桜の場合は樹幹に着生していることが多いです。これは若い枝には種子の引っかかる場所が少なく、樹幹はウメノキゴケはびっしりと生え活着しやすいためだと思われます。朝方に霧のかかるような山間部でドライブ中に梅や桜の古木を見つけたら本種を探してみてください。国道沿いでもしばしば見つけることができます。花の時期にはそれなりに目立ちますが、コケの色と見分けがつきにくいため遠目ではなかなか発見できません。冬場は若干葉の水分が抜けてしなびた姿で越冬します。

Document and photo by LittleFlower 2009

花のアップ(愛知県奥三河09.05/23)

成熟した種子(愛知県奥三河09.07/05)

商用生産はされていないので入手は困難です。希に野草店やオークションで出品されますが、盗掘品の可能性が高いですし、本種はセッコクやムギランのように養分や水分を溜めるバルブを持たないため、よほど良い条件下でないと栽培は困難なので購入はお控え下さい。それでも栽培してみたいという方は、自生地での落下株を探して拾ってチェレンジしてみて下さい。十分な通風と湿度、最低限の温度を維持できれば栽培は可能です。庭木に着けるかケト土を練りこんだヘゴにあらかじめコケを生やしておいて、そこに着生させ吊るして管理することもできます。しかしなにぶん弱い蘭ですので、都市部では相当神経質な管理が必要になります。それほど観賞価値の高い蘭ではないですし、枯らした時の罪悪感と後悔を考えると栽培はおススメできません。

梅の樹幹に着生(愛知県奥三河09.07/05)

落下した杉の小枝に着生(愛知県奥三河09.03/21)

近縁種には、南方系のオオバヨウラクランがあります。ヨウラクランとの明確な違いは無いようですが、本種は和歌山県、高知県以南に自生し、若干大型で花茎も長いのが特徴です。さらに徳之島と沖縄にはクスクスヨウラクラン(アリサンヨウラクラン)と呼ばれる種もあり、本種はオオバヨウラクランよりもさらに大きく、葉1枚が20～40mmにもなり、花茎も100mmを超えます。

Document and photo by LittleFlower 2009